

作成年月日	平成24年6月18日
作成部局課室名	企画県民部広報課広聴室

県民モニター「第1回アンケート調査」結果概要

1 調査概要

- (1) 調査テーマ:「都市農村交流と楽農生活の推進について」
- (2) 調査対象者:県民モニター1,908人
- (3) 調査期間:平成24年4月25日(水)～5月14日(月)[20日間]
- (4) 調査方法:県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数:1,329人(回答率69.7%)
- (6) 自由記入欄:7箇所設定(回答者の16.9%がいずれかに記載)

<参考 - 対象者及び回答者属性>

		対象者	回答者	回答率
総数		1,908	1,329	69.7%
性別	男性	1,058	787	74.4%
	女性	850	542	63.8%
年代別	10～20代	153	72	47.1%
	30代	311	186	59.8%
	40代	368	245	66.6%
	50代	315	227	72.1%
	60代	464	368	79.3%
	70代以上	297	231	77.8%

2 調査結果の概観

(1) 都市農村交流について

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																								
都市農村交流への関心	『関心がある:73.2%』 非常に関心がある:19.4% どちらかといえば関心がある:53.8%	7割(73.2%)を超える県民が都市農村交流や農山漁村地域での一時滞在・定住に関心を寄せている。これらの関心に応えるための施策展開が求められる。																								
農山漁村地域に行ってみたい頻度や期間	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>短期滞在 (1～2日間)</th> <th>中期滞在 (1～3週間)</th> <th>長期滞在 (1～3ヶ月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年に1回程度</td> <td>36.5%</td> <td>16.8%</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>月に1回程度</td> <td>29.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>週に1回程度</td> <td>3.2%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移住・定住</td> <td>3.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		短期滞在 (1～2日間)	中期滞在 (1～3週間)	長期滞在 (1～3ヶ月)	年に1回程度	36.5%	16.8%	2.2%	月に1回程度	29.7%			週に1回程度	3.2%			合計	69.4%			移住・定住	3.7%			農山漁村には、日帰り又は1泊程度の短期滞在の志向が高く(69.4%)、年に1回程度の短期滞在(36.5%)、月に1回程度の短期滞在(29.7%)の割合が高い。 一方で、交流や一時滞在にとどまらず、移住・定住(3.7%)についても一定の関心がある。
	短期滞在 (1～2日間)	中期滞在 (1～3週間)	長期滞在 (1～3ヶ月)																							
年に1回程度	36.5%	16.8%	2.2%																							
月に1回程度	29.7%																									
週に1回程度	3.2%																									
合計	69.4%																									
移住・定住	3.7%																									
農山漁村地域でしてみたいこと	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域の郷土料理や名物料理を食べる</td> <td>61.2%</td> </tr> <tr> <td>山歩き、星空・ホテル鑑賞などの自然体験</td> <td>60.2%</td> </tr> <tr> <td>温泉や名所・史跡めぐりなどの観光</td> <td>59.3%</td> </tr> <tr> <td>直販施設での農林水産品の購入</td> <td>43.6%</td> </tr> <tr> <td>地域の人たちとの交流・ふれあい</td> <td>38.0%</td> </tr> <tr> <td>農作業、森林間伐、地引網などの農林漁業体験</td> <td>35.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>{交流・ふれあい活動でしてみたいこと}</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域の祭りやイベントへの参加</td> <td>65.7%</td> </tr> <tr> <td>販売・宿泊施設等での会話等</td> <td>45.7%</td> </tr> <tr> <td>地域づくり活動(地域イベントの企画や地域課題の検討など)</td> <td>33.2%</td> </tr> <tr> <td>草刈りなど自治会(集落)での共同作業</td> <td>20.2%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	地域の郷土料理や名物料理を食べる	61.2%	山歩き、星空・ホテル鑑賞などの自然体験	60.2%	温泉や名所・史跡めぐりなどの観光	59.3%	直販施設での農林水産品の購入	43.6%	地域の人たちとの交流・ふれあい	38.0%	農作業、森林間伐、地引網などの農林漁業体験	35.7%	区分	割合	地域の祭りやイベントへの参加	65.7%	販売・宿泊施設等での会話等	45.7%	地域づくり活動(地域イベントの企画や地域課題の検討など)	33.2%	草刈りなど自治会(集落)での共同作業	20.2%	農山漁村地域でしてみたいことは、「郷土料理などの食事(61.2%)」、「自然体験(60.2%)」、「観光(59.3%)」の順に関心が高い。 また、特に農山漁村地域での交流・ふれあい活動については、「イベントへの参加(65.7%)」、「販売・宿泊施設での交流(45.7%)」など、気軽に参加できる交流への関心が高いが、「イベント企画等の地域づくり活動への参画(33.2%)」など、地域と深く関わる交流についても一定の関心がある。 このため、都市農村交流を効果的に推進するには、こうしたニーズを的確に捉えた施策展開が求められる。
区分	割合																									
地域の郷土料理や名物料理を食べる	61.2%																									
山歩き、星空・ホテル鑑賞などの自然体験	60.2%																									
温泉や名所・史跡めぐりなどの観光	59.3%																									
直販施設での農林水産品の購入	43.6%																									
地域の人たちとの交流・ふれあい	38.0%																									
農作業、森林間伐、地引網などの農林漁業体験	35.7%																									
区分	割合																									
地域の祭りやイベントへの参加	65.7%																									
販売・宿泊施設等での会話等	45.7%																									
地域づくり活動(地域イベントの企画や地域課題の検討など)	33.2%																									
草刈りなど自治会(集落)での共同作業	20.2%																									

農山漁村地域で定住する場合の課題	区分	割合	医療施設、スーパーマーケット等の施設が少ないことが課題とする割合が高い。また、移動手段や通信環境に加え、就業環境が不十分とする割合も高い。 このため、「医療」や「仕事」に係る施策と連携した、定住施策の展開が求められる。
	医療施設や介護施設が少ない	65.9%	
	交通環境や情報通信環境が不十分	53.4%	
	スーパーや金融機関、飲食店などの施設が少ない	48.2%	
	就業環境が不十分	43.7%	
都市農村交流や農山漁村地域での一時滞在・定住に必要な制度や施策	区分	割合	前問の課題に対応した「医療」、「仕事」に加え、「住まい」が重要な要素であることがうかがえる。 その他、情報発信や相談体制の充実についても必要とされていることから、これらの施策展開が求められる。
	農山漁村地域での医療や介護環境の整備	59.8%	
	農山漁村地域での就業支援	46.8%	
	空き家バンクの整備	45.7%	
	移住のための賃貸や住居改修の助成制度	42.8%	
	田舎暮らし等に関する情報発信、相談会の実施	38.6%	
	道路や情報インフラ等農山漁村地域への公共投資	35.7%	
	田舎暮らしに関するアドバイスを行う相談員の設置、斡旋	32.7%	

(2) 楽農生活について

・「農」に親しむ取り組みについて

項目	アンケート結果(主な意見)				結果の考察
「農」に親しむ取り組みの実践の状況	区分	している	してみたい	計	「農」に親しむ取り組みは、家庭菜園やガーデニング、農林漁業体験など、身近でできることを中心に実践している割合が高くなっている。 一方、その他の取り組みは、現在の実践は2割台以下にとどまっているものの、今後してみたいという関心は高い。 いわゆる現役世代(50代以下)では、定年退職後に農作業をしてみたい割合が6割近くあり、60代以上においても、している、してみたいを合わせて約6割と、本格的な取り組みへの関心の高さがうかがえる。 このため、「農」に親しむ取り組みの実践を効果的に推進するためには、こうしたニーズを捉えた施策展開が求められている。
	家庭菜園、ガーデニング	58.7%	28.9%	87.6%	
	農林漁業体験(田植え等)	35.1%	40.9%	76.0%	
	農産物の加工体験	27.8%	48.2%	76.0%	
	市民農園での野菜づくり	22.9%	41.8%	64.7%	
	定年退職後の農作業	16.6%	44.2%	60.8%	
		50代以下 (4.7%)	(57.8%)	(62.5%)	
	60代以上 (31.2%)	(27.5%)	(58.7%)		
	農山漁村での農作業応援(ボランティア、企業研修等)	12.3%	47.4%	59.7%	
就農をめざした講座の受講	6.1%	41.7%	47.8%		
「農」に親しむ取り組みの魅力	区分	割合		「農」に親しむ取り組みの魅力については、「土や自然とのふれあいができる(73.4%)」、「安全なものを食べることができる(54.9%)」、「健康づくりにつながる(50.7%)」の順に割合が高い。 また、健康づくりについては、年代が上がるほどその割合は高くなっており、高齢化が進むなか、健康志向の高まりを反映したものとなっている。	
	土や自然とのふれあいができる	73.4%			
	自分でつくった安全なものを食べることができる	54.9%			
	健康づくりにつながる	50.7%			
		年代別	~30代		41.5%
40・50代	45.1%				
60代~	59.1%				
「農」に親しむ取り組みを行う上で必要なこと	区分	割合		「農」に親しむ取り組みを実践するためには、情報及び身近に親しめる体験施設が求められている。 「農」に親しむ取り組みを誘発するためには、情報発信の強化や各地域における体験の場づくりを進める等、県民が利用しやすい環境づくりを進める必要がある。	
	「農」に親しめる場やイベント等に関する情報	55.3%			
	身近に親しめる体験施設	51.4%			
	地元農家との交流(収穫祭等)	44.2%			

・市民農園について

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察								
市民農園への関心	『関心がある』:63.1% (非常に関心がある:14.9%、 どちらかといえば関心がある:48.2%) 『関心がない』:37.0% (あまり関心がない:31.2%、 まったく関心がない:5.8%)	楽農生活の身近な実践の場として注目される市民農園に対する関心は、6割を超えている。 また、企業や自治会等、多様な開設主体による市民農園の利用ニーズに加え、自らが開設主体となることへの関心も読み取れる。 今後、より一層の市民農園の整備促進や市民農園情報の提供を行うとともに、開設手法等についても情報発信し、多様な主体による開設を促進する。								
市民農園の開設への関心	『関心がある』:61.7% (非常に関心がある:13.8%、 どちらかといえば関心がある:47.9%) 『関心がない』:38.3% (あまり関心がない:32.8%、 まったく関心がない:5.5%)									
住居から少し離れた市民農園を利用する上で必要なこと	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農作業や栽培について指導してくれる</td> <td>50.6%</td> </tr> <tr> <td>普通の維持管理をしてもらえる</td> <td>47.0%</td> </tr> <tr> <td>利用料金が都市部と比べて大幅に安い</td> <td>44.9%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	農作業や栽培について指導してくれる	50.6%	普通の維持管理をしてもらえる	47.0%	利用料金が都市部と比べて大幅に安い	44.9%	市民農園の利用促進に向けては、栽培指導や維持管理等、ソフト面の充実が求められていることがうかがえる。 新たな市民農園を整備する際や、現在利用率の低い市民農園開設者に対して、こうした意見を踏まえた情報提供を行い、利用者の観点に立ったサービスの充実等に努めていく必要がある。
区分	割合									
農作業や栽培について指導してくれる	50.6%									
普通の維持管理をしてもらえる	47.0%									
利用料金が都市部と比べて大幅に安い	44.9%									

・兵庫県産農林水産物について

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察										
農林水産物購入時の産地(兵庫県産)へのこだわり	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兵庫県産があれば意識して兵庫県産を購入する</td> <td>55.1%</td> </tr> <tr> <td>国産にはこだわるが兵庫県産にはこだわっていない</td> <td>35.4%</td> </tr> <tr> <td>「兵庫県認証食品」をできるだけ購入している</td> <td>19.3%</td> </tr> <tr> <td>産地にはこだわらない</td> <td>7.8%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	兵庫県産があれば意識して兵庫県産を購入する	55.1%	国産にはこだわるが兵庫県産にはこだわっていない	35.4%	「兵庫県認証食品」をできるだけ購入している	19.3%	産地にはこだわらない	7.8%	「兵庫県産があれば意識して兵庫県産を購入する」人が5割を超えていることから、安全安心な県産農林水産物の安定的な供給を一層推進する必要がある。 一方、「兵庫県認証食品」をできるだけ購入している人は19.3%にとどまっており、また、「国産にはこだわるが、兵庫県産にはこだわっていない」とした人が35.4%であったことから、今後とも「ひょうご認証食品制度」のPRや、地産地消が地域農業の振興に寄与することについての理解促進を図り、兵庫県産を購入する意識を醸成する必要がある。
区分	割合											
兵庫県産があれば意識して兵庫県産を購入する	55.1%											
国産にはこだわるが兵庫県産にはこだわっていない	35.4%											
「兵庫県認証食品」をできるだけ購入している	19.3%											
産地にはこだわらない	7.8%											

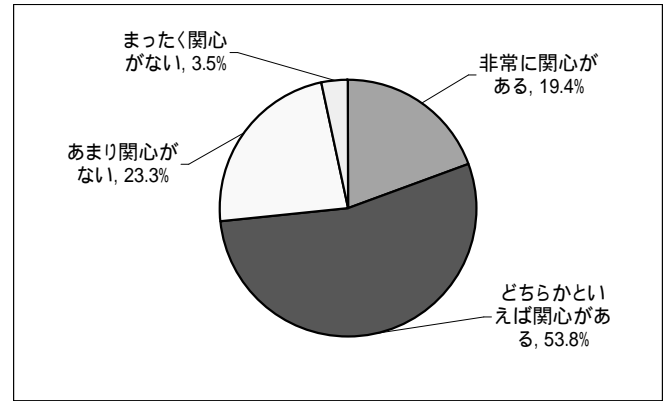
アンケート結果は、地域再生に向けた多自然居住の推進や、ひょうご農林水産ビジョン2020に掲げる「農」に親しむ楽農生活の推進に向けた具体的な施策展開の参考とする。

3 調査結果

(1) 都市農村交流について

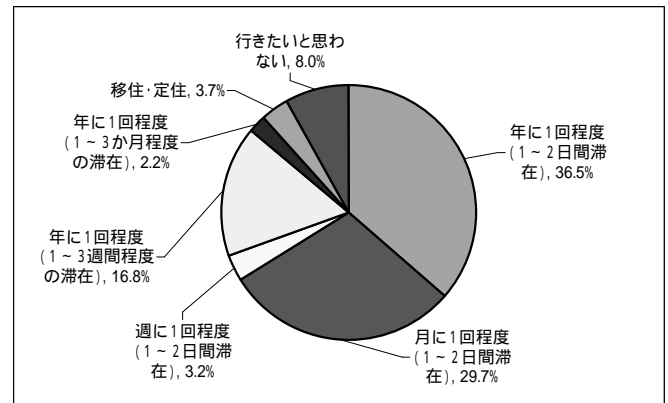
Q1 都市農村交流や農山漁村地域での一時滞在・定住に関心があるか(1つ選択)

(1) 非常に関心がある	19.4%
(2) どちらかといえば関心がある	53.8%
(3) あまり関心がない	23.3%
(4) まったく関心がない	3.5%



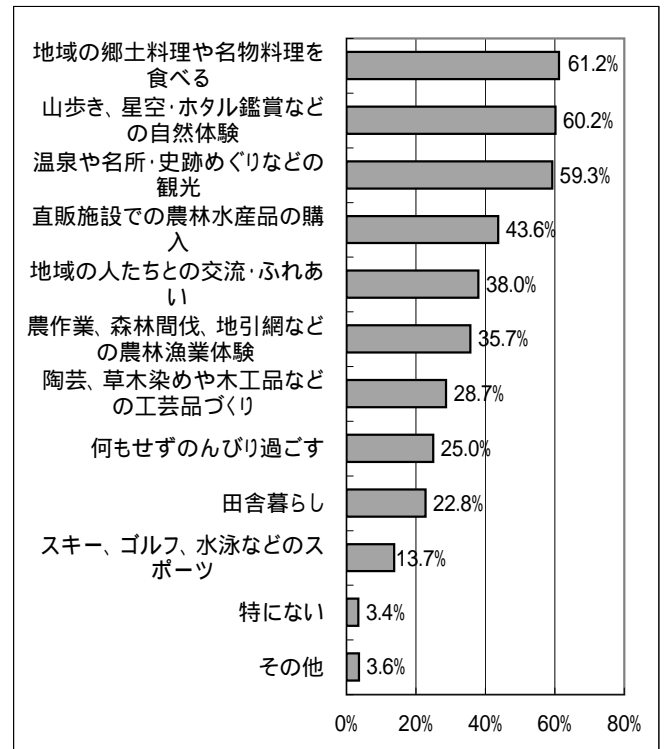
Q2 農山漁村地域に行ってみたい頻度や期間は(1つ選択)

(1) 年に1回程度(1~2日間滞在)	36.5%
(2) 月に1回程度(1~2日間滞在)	29.7%
(3) 週に1回程度(1~2日間滞在)	3.2%
(4) 年に1回程度(1~3週間程度の滞在)	16.8%
(5) 年に1回程度(1~3か月程度の滞在)	2.2%
(6) 移住・定住	3.7%
(7) 行きたいと思わない	8.0%



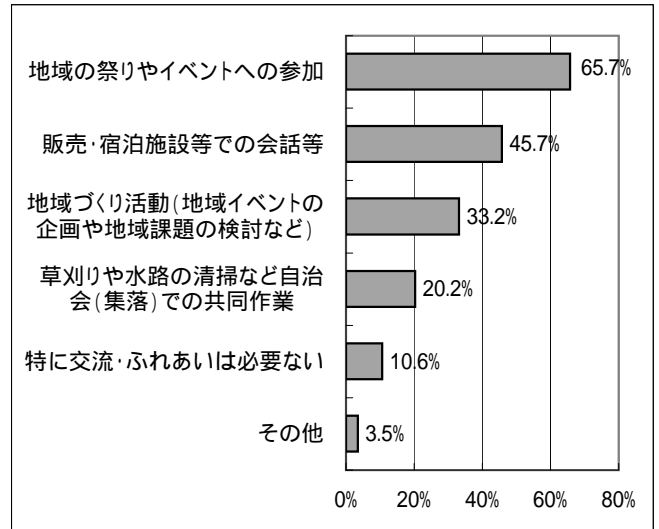
Q3 農山漁村地域で何をしてみたいか(いくつでも選択)

(1) 地域の郷土料理や名物料理を食べる	61.2%
(2) 山歩き、星空・ホタル鑑賞などの自然体験	60.2%
(3) 温泉や名所・史跡めぐりなどの観光	59.3%
(4) 直販施設での農林水産品の購入	43.6%
(5) 地域の人たちとの交流・ふれあい	38.0%
(6) 農作業、森林間伐、地引網などの農林漁業体験	35.7%
(7) 陶芸、草木染めや木工品などの工芸品づくり	28.7%
(8) 何もせずのんびり過ごす	25.0%
(9) 田舎暮らし	22.8%
(10) スキー、ゴルフ、水泳などのスポーツ	13.7%
(11) 特にない	3.4%
(12) その他	3.6%
・趣味のこと(魚釣り・スケッチ等)	10件
・地域の人のお手伝い(雪下ろし等)	4件
など	48件



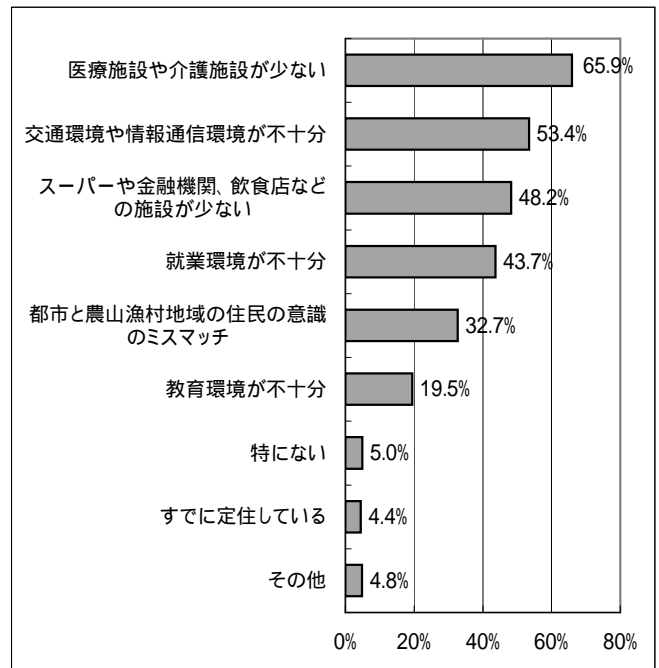
Q4 農山漁村地域で、どのような交流・ふれあい活動がしたいか(いくつでも選択)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| (1) 地域の祭りやイベントへの参加 | 65.7% |
| (2) 販売・宿泊施設等での会話等 | 45.7% |
| (3) 地域づくり活動(地域イベントの企画や地域課題の検討など) | 33.2% |
| (4) 草刈りや水路の清掃など自治会(集落)での共同作業 | 20.2% |
| (5) 特に交流・ふれあいは必要ない | 10.6% |
| (6) その他 | 3.5% |
| ・地方の方から地域にまつわる話を聞くこと | 9件 |
| ・農作業・植物栽培等の指導・伝授 | 6件 |
| など | 46件 |



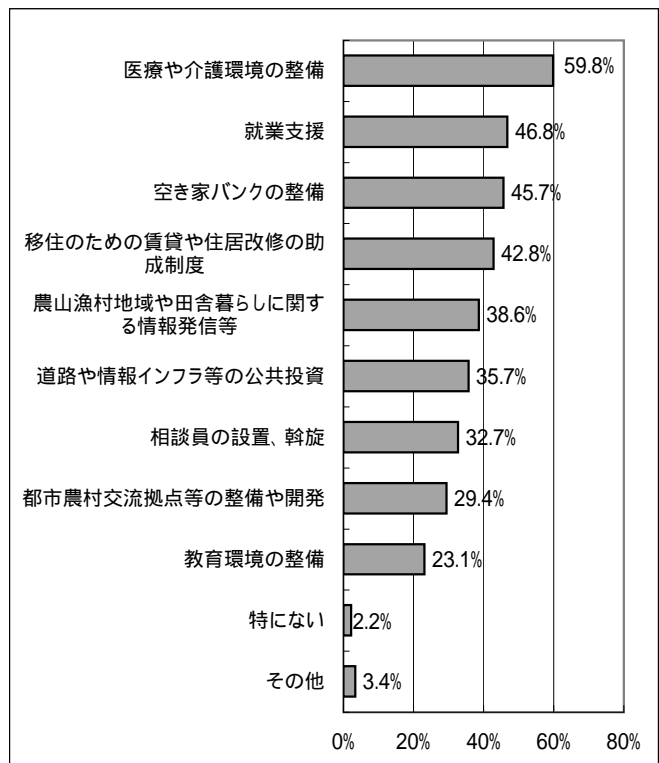
Q5 農山漁村地域に定住するとすれば、課題となることは(いくつでも選択)

- | | |
|----------------------------|-------|
| (1) 医療施設や介護施設が少ない | 65.9% |
| (2) 交通環境や情報通信環境が不十分 | 53.4% |
| (3) スーパーや金融機関、飲食店などの施設が少ない | 48.2% |
| (4) 就業環境が不十分 | 43.7% |
| (5) 都市と農山漁村地域の住民の意識のミスマッチ | 32.7% |
| (6) 教育環境が不十分 | 19.5% |
| (7) 特にない | 5.0% |
| (8) すでに定住している | 4.4% |
| (9) その他 | 4.8% |
| ・近所づきあい等の人間関係 | 13件 |
| ・文化面・娯楽面が不自由 | 5件 |
| など | 64件 |



Q6 都市農村交流や農山漁村地域での一時滞在・定住を推進するために必要な制度や施策は(いくつでも選択)

- | | |
|--|-------|
| (1) 農山漁村地域での医療や介護環境の整備 | 59.8% |
| (2) 農山漁村地域での就業支援 | 46.8% |
| (3) 空き家バンク(田舎暮らしの希望者と空き物件所有者をマッチングする取組)の整備 | 45.7% |
| (4) 移住のための賃貸や住居改修の助成制度 | 42.8% |
| (5) 農山漁村地域や田舎暮らしに関する情報発信、相談会の実施 | 38.6% |
| (6) 道路や情報インフラ等農山漁村地域への公共投資 | 35.7% |
| (7) 田舎暮らしに関するアドバイスをを行う相談員の設置、斡旋 | 32.7% |
| (8) 都市農村交流の拠点や情報発信となる施設の整備や開発 | 29.4% |
| (9) 農山漁村地域での教育環境の整備 | 23.1% |
| (10) 特にない | 2.2% |
| (11) その他 | 3.4% |
| ・地域住民による受け入れ体制づくり | 9件 |
| ・農地等取得の斡旋制度 | 5件 |
| など | 45件 |

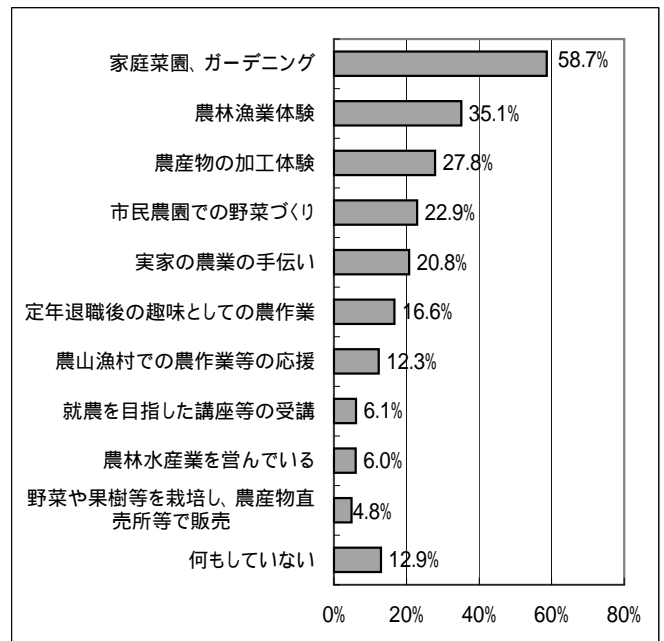


(2) 楽農生活について

(「農」に親しむ取り組みについて)

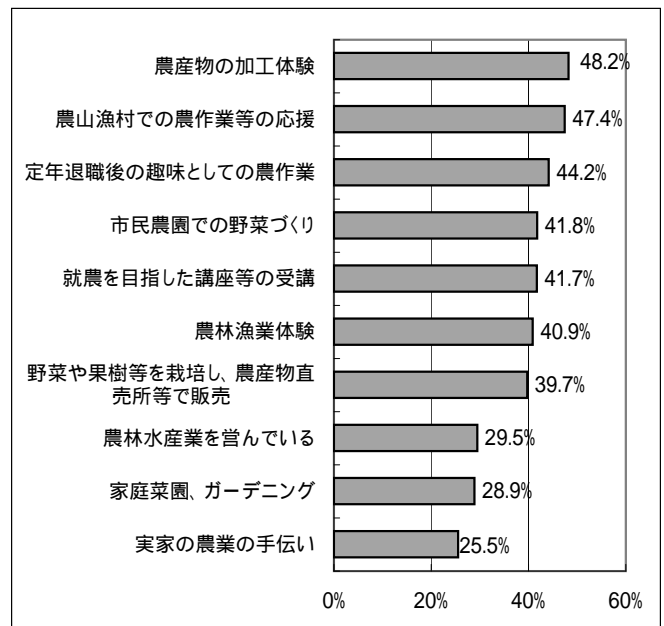
Q1 農作業や加工体験など「農」に親しむ取り組みを何かしているか(いくつでも選択)

(1) 家庭菜園、ガーデニング	58.7%
(2) 農林漁業体験(田植え、果樹のもぎ取り、地引き網等)	35.1%
(3) 農産物の加工体験(ジャムづくり、そば打ち等)	27.8%
(4) 市民農園での野菜づくり	22.9%
(5) 実家の農業の手伝い	20.8%
(6) 定年退職後の趣味としての農作業	16.6%
(7) 農山漁村での農作業等の応援(ボランティア、企業研修等)	12.3%
(8) 就農を目指した講座等の受講	6.1%
(9) 農林水産業を営んでいる	6.0%
(10) 野菜や果樹等を栽培し、農産物直売所等で販売	4.8%
(11) 何もしていない(興味がない)	12.9%



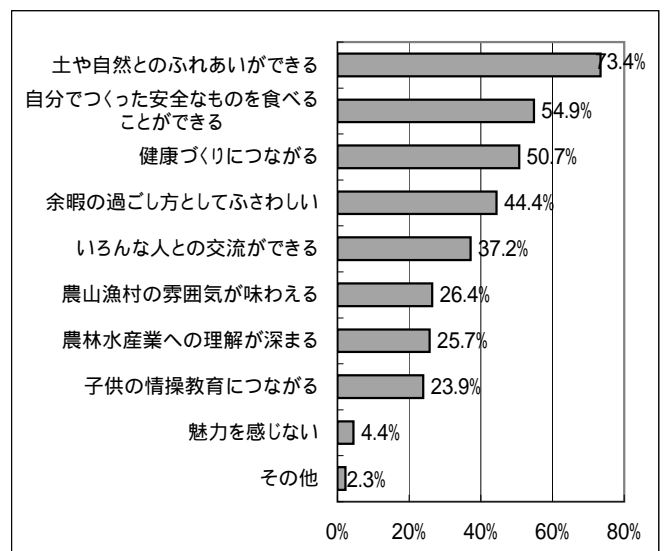
Q1-2 農作業や加工体験など「農」に親しむ取り組みで今後、新たに組み込んでみたいことは(いくつでも選択)

(1) 農産物の加工体験(ジャムづくり、そば打ち等)	48.2%
(2) 農山漁村での農作業等の応援(ボランティア、企業研修等)	47.4%
(3) 定年退職後の趣味としての農作業	44.2%
(4) 市民農園での野菜づくり	41.8%
(5) 就農を目指した講座等の受講	41.7%
(6) 農林漁業体験(田植え、果樹のもぎ取り、地引き網等)	40.9%
(7) 野菜や果樹等を栽培し、農産物直売所等で販売	39.7%
(8) 農林水産業を営んでいる	29.5%
(9) 家庭菜園、ガーデニング	28.9%
(10) 実家の農業の手伝い	25.5%



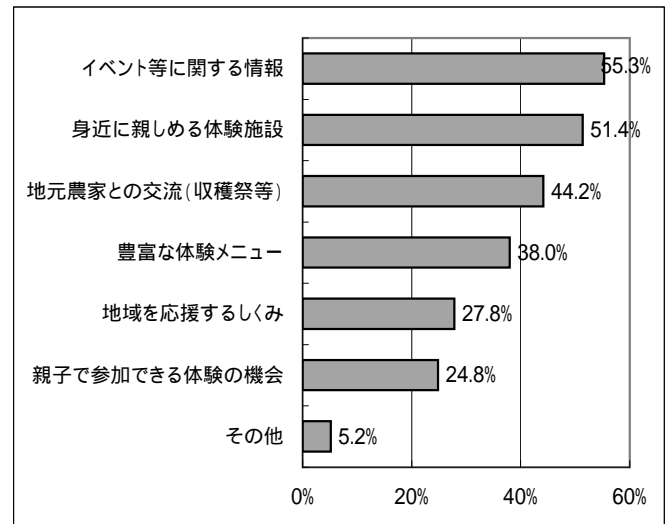
Q2 農作業や加工体験など「農」に親しむ取り組みにどんな魅力を感じるか(いくつでも選択)

(1) 土や自然とのふれあいができる	73.4%
(2) 自分でつくった安全なものを食べることができる	54.9%
(3) 健康づくりにつながる	50.7%
(4) 余暇の過ごし方としてふさわしい	44.4%
(5) いろんな人との交流ができる	37.2%
(6) 農山漁村の雰囲気が味わえる	26.4%
(7) 農林水産業への理解が深まる	25.7%
(8) 子供の情操教育につながる	23.9%
(9) 魅力を感じない	4.4%
(10) その他	2.3%



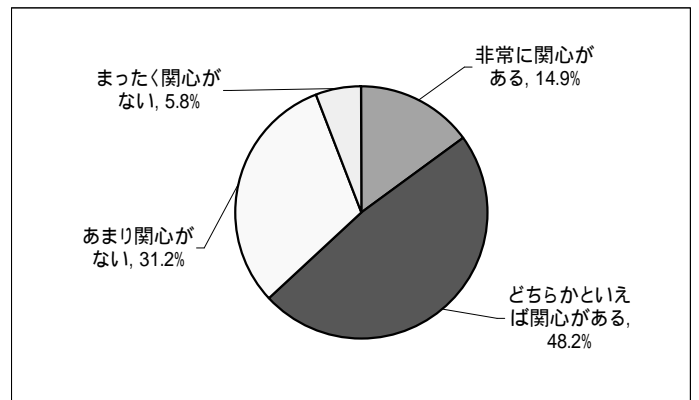
Q3 今後、新たに農作業や加工体験など「農」に親しむ取り組みを行う上で、必要なことは(いくつでも選択)

- | | |
|----------------------------------|-------|
| (1) 地域農産物や農林漁業に親しめる場やイベント等に関する情報 | 55.3% |
| (2) 身近に親しめる体験施設 | 51.4% |
| (3) 地元農家との交流(収穫祭等) | 44.2% |
| (4) 様々な作物栽培や加工品づくりなどの豊富な体験メニュー | 38.0% |
| (5) ボランティアや出資などを通じて地域を応援するしくみ | 27.8% |
| (6) 親子で参加できる体験の機会 | 24.8% |
| (7) その他 | 5.2% |



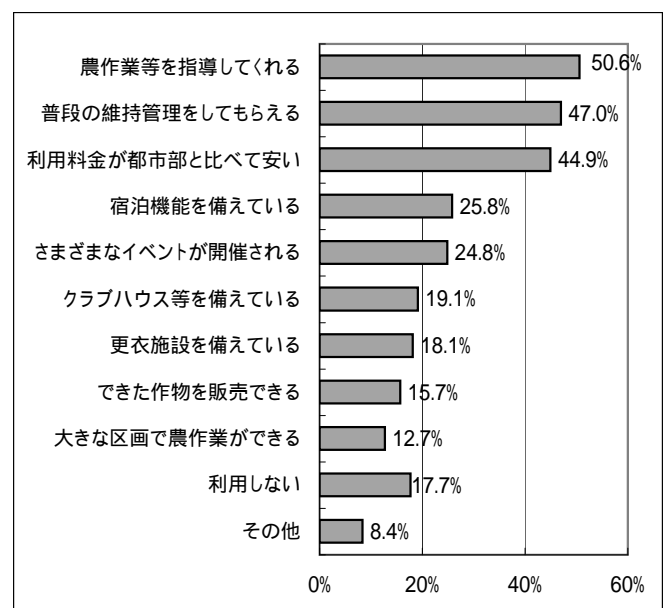
Q4 市民農園に関心があるか(1つ選択)

- | | |
|-------------------|-------|
| (1) 非常に関心がある | 14.9% |
| (2) どちらかといえば関心がある | 48.2% |
| (3) あまり関心がない | 31.2% |
| (4) まったく関心がない | 5.8% |



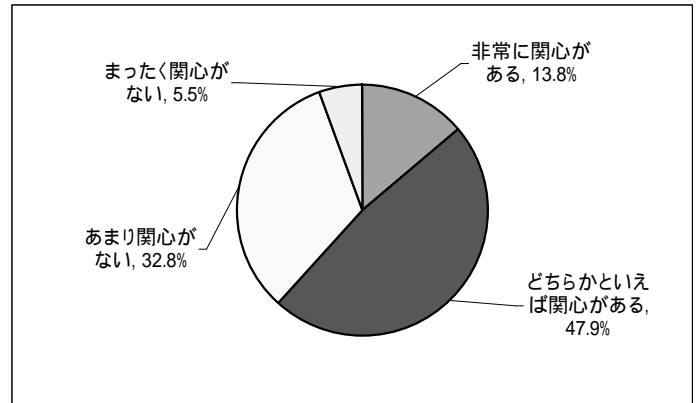
Q5 どんな市民農園であれば、住居から少し離れても(住居から5km~10km)利用するか(いくつでも選択)

- | | |
|-------------------------|-------|
| (1) 農作業や栽培について指導してくれる | 50.6% |
| (2) 普段の維持管理をしてもらえる | 47.0% |
| (3) 利用料金が都市部と比べて大幅に安い | 44.9% |
| (4) 宿泊機能を備えている | 25.8% |
| (5) 収穫祭等さまざまなイベントが開催される | 24.8% |
| (6) クラブハウスやレストラン等を備えている | 19.1% |
| (7) 更衣施設を備えている | 18.1% |
| (8) できた作物を販売できる | 15.7% |
| (9) 大きな区画で本格的な農作業ができる | 12.7% |
| (10) 住居から離れた市民農園は利用しない | 17.7% |
| (11) その他 | 8.4% |



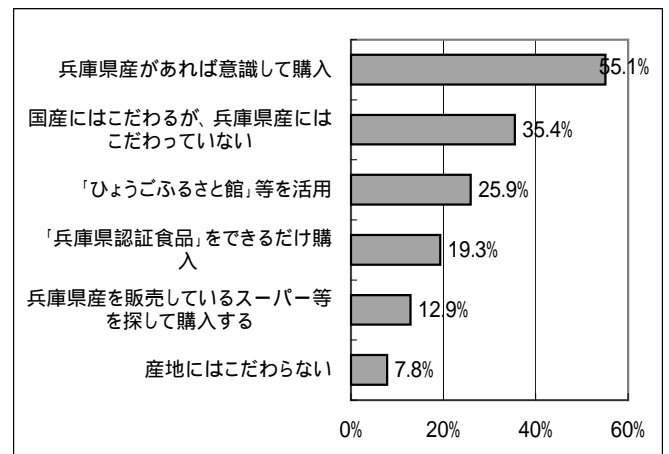
Q6 市民農園の開設に関心があるか(1つ選択)

- | | |
|-------------------|-------|
| (1) 非常に関心がある | 13.8% |
| (2) どちらかといえば関心がある | 47.9% |
| (3) あまり関心がない | 32.8% |
| (4) まったく関心がない | 5.5% |



Q7 農林水産物を購入するとき、産地(特に兵庫県産)にこだわっているか(いくつでも選択)

- | | |
|---|-------|
| (1) 兵庫県産があれば意識して兵庫県産を購入する | 55.1% |
| (2) 国産にはこだわるが、兵庫県産にはこだわっていない | 35.4% |
| (3) 直売所や「ひょうごふるさと館」(そごう神戸店)等を活用し、兵庫県産品を購入する | 25.9% |
| (4) 「兵庫県認証食品」をできるだけ購入している | 19.3% |
| (5) 兵庫県産を販売しているスーパー等を探して購入する | 12.9% |
| (6) 産地にはこだわらない | 7.8% |



企画県民部広報課広聴室広聴係 (TEL078-362-3021)